囲炉裏

囲炉裏は、合掌造りの家の温かな中心です。料理や湯を沸かすといった日常の家事に加え、囲炉裏は伝統的に、社会的な目的を果たしました。家族と客の双方が、囲炉裏の周りに集まり、食事したり、会話したり、あるいは単に一緒に過ごしたりしました。さらに、囲炉裏から絶えず立ち昇り、格子の天井を通過して屋根裏に入っていく煙と熱の恩恵を受けるため、合掌造りの家が建てられました。時と共に煙のすすが室内のあらゆる部分に付着して黒くなり、湿気や害虫に対する木材の耐性を高めます。屋根裏に達する熱は茅葺き屋根の乾燥を保ち、腐敗や早期劣化を防ぎます。この同じ熱は屋根裏の温度をかなり安定させるのにも役立ちますが、18世紀から20世紀の最初の数十年まで盛んだった養蚕が、合掌造りの屋根裏で行われていた頃、これは重要なことでした。最後に、囲炉裏は別の地元産業をも支えました。囲炉裏の下に穴を掘り、火薬の重要成分である硝酸カリウムを作ったのです。製造には、安定した熱の供給に頼る発酵プロセスが含まれています。